

多摩川（神奈川県、東京都）

1) 今回取り上げる川

今回は多摩川を取りあげたいと思います。この川は私の住む神奈川県だけでなく東京・調布駅近くも流れている川であり、また大学から一番近い野川が合流するなど私だけでなく ICU に通う人々にとっても身近であるかもしれません。私は大学へ通う際には毎回電車（東急東横線）で多摩川を越えていくため多摩川流域の四季の変化を毎朝楽しむことができ元気もらっています。今回はその感謝の意も込めて私の家の近く、通学途中にあるいくつかの川の中からこの川を選びました。



2) 多摩川についての基本データ

多摩川の全長は 138km、流域面積は 1,240km² あります。また、全国にある 109 の一級水系の中のひとつであり国土交通大臣が国土保全上または国民経済上特に重要として指定した水系に指定されています。水源は笠取山（標高 1953m）に位置し神奈川県、東京都を流れ東京湾へと注いでいます。名前の由来には諸説ありも現在も本当の由来がどれなのかは不明のままです。

3) 現在の姿、私とのかかわり

現在 川の上流、源泉付近には豊かな自然がそのままに近い形で残っています。私が日ごと通学時に目にする中・下流域には広大な緑地も見られグラウンドやサイクリングロード・散歩道があり、また釣り場・イベントを行う場としても利用されるなど周辺の住人たちにとっては楽しみや癒しを提供してくれる貴重な場所となっています。緑地はスポーツ・レジャーのためだけではなく水質の改善・向上といった重要な機能もはたしています。朝の通学時間帯にはラクロスの練習をしている学生たちの姿もみられるなど市民と川との密接な関係がみてとれます。私個人の多摩川とのかかわりとしては大きく分けて二つあります。第一に川辺・川岸での直接的な体験。サークルのイベントの一環として多摩川の河川敷でバーベキューやレクリエーションをしました。そのときは川の水量が少なかったため、川辺には流木が見られたり増水時には見ることができなくなってしまう川の底をみて、実際に足を踏み入れることができたりとイベントだけでなく普段とは異なる川を見て触れることができとても印象にのこっています。また、9月に開かれた調布花火大会に行った際は多摩川の河川敷から川の上空にうちあげられる花火をみることができ私自身も多

摩川から楽しみをもらいました。そして第二としては川を見て感じたことを取りあげたいと思います。毎日のように多くの人々が川を訪れるのをみて、繰り返しになりますが、多摩川がそこにかかわる人々びとにとってとても大きな存在でありかつ人々に愛されているなとかんじます。また付近の子供たちにとっては自然を体験できる大切な場所あるようにも思われます。それはこの川が幸運にも完全にフェンスなどで囲まれることなく直に触れることができる環境にあるからこそでもあるのです。

4) 多摩川の歴史、20—30年前の姿・環境について

多摩川が20—30年前も市民にとって上記のような愛される存在としての川の姿をしていたかと聞かれればその答えはNOと言わざるをえません。残念なことに周辺に多摩川の昔の様子を知る人がいないため国土交通省京浜河川事務所や次の項でも紹介するサイトから情報を集めました。1950年代後半から日本が高度経済成長期に突入すると川（特に中・下流）の汚染がはげしくなり 60-70年代にもなると魚類の生息限界にまで悪化、農薬・工業排水の垂れ流しがそれに拍車をかけることとなり川のあちこちで魚が大量死しました。当時の多摩川は水質汚染にさまざまな問題をかかえていたそうです。ただ現在では大規模な治水工事や下水道の整備、工場の減少によりアユなど多数の魚類の生息が確認されるまでにいたっているなど当時にくらべれば状況は徐々に改善されているといえます。ただ、完全な水質の向上・回復には至っておらず今後も水質の向上への継続的なたよりくみが求められています。

5) 多摩川を取り扱っている

3) で多摩川が、人々にとって大きな存在であるということは多摩川を扱ったサイトからもわかります。ここでは印象深いいくつかのサイトをとりあげます。

①多摩川流域リバーミュージアム <http://www.tamariver.net/index.htm>

サイトを通じての市民・団体・自治体の協力を目的として掲げ、同時に多摩川を持つ価値を学習・共有できるようにすることを目的としたサイト。多摩川の歴史・生態系・川にまつわる文化や学習のための資料掲載、情報発信がメインで、具体的には多摩川のライブ映像の紹介・多摩川流域での各団体の活動の紹介・多摩川にまつわる歴史・文化資料の掲載を行っています。

②多摩川について <http://homepage1.nifty.com/misato-tenaga/tamagawa/001.html>

多摩川について主に水質面や存在の歴史の変遷を紹介しているサイト。

③共立理化学研究所 <http://kyoritsu-lab.co.jp/tokusyu/tama24/index.html>

簡易水質分析製品を開発している会社で水の研究の紹介などを行っている。特集ページには多摩川の24時間水質調査があり、実際に多摩川の水質調査を行う過程やその結果を知ることができる。今回のレポートだけではなく水と化学の授業自体にも

有用なサイト。

④多摩川源流研究所 <http://www.tamagawagenryu.net/>

多摩川源流の調査研究を目的とする多摩川源流研究所のサイト。自然的・歴史的・文化的・経済的側面など多様な面からのアプローチ・研究を行っている。

6) これからどんな存在であってほしいか。

平成 18 年度の東京都、国土交通省、八王子市及び町田市の、都内の 52 河川(56 水域 109 地点)・海域(4 水域 50 地点)・湖沼(1 水域 2 地点)に対する水質調査の結果によると多摩川は BOD(Biochemical Oxygen Demand : 生物化学的酸素要求量) (※1) の高い川のランキング 9 位でありまだまだ完全な水質の向上・回復までにはいたっていないのが現状です。しかし私たちは今、川の存在の大きさ大切さに気づき、いままでの過ちを償うため川を見捨てることなく自治体や団体の活動や個人個人の心がけなどを通じ本来の姿を取り戻す努力をしています。多摩川が人々にとってそして環境にとって優しい姿を持つ川として将来存在することを強く望みます。

※1・・・BOD (Biochemical Oxygen Demand : 生物化学的酸素要求量)

河川の有機性汚濁による水質汚濁指標として用いられています。BOD が高ければ、水中の酸素をたくさん消費し水生生物に悪影響を与えます。一般的に、人為的汚濁のない、きれいな河川の BOD としては 1 ミリグラム/リットル以下、魚の生育環境としては 5 ミリグラム/リットル以下が望ましいといわれています。

(東京都環境局

<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2007/07/60h7v100.htm> から引用)